

令和7年度「奇跡の復興米」

取り組み紹介

ひがしにほんだいしんさい ひさいち おおつち とんだばやし つな
東日本大震災の被災地・大槌町と富田林市を繋ぐ

きせき

ふっこうまい

奇跡の復興米

その苗は、東日本大震災で被災した岩手県大槌町でガレキの中から見つかった3株のイネを源流にもちます。津波を奇跡的に生き残り、海水を被った土地でも成長したその生命力を、被災の記憶と共に後世に伝え、防災の重要性を考えていく取組です。



富田林市・富田林市立小学校
JA大阪南・JA大阪南青壮年部
がこの取り組みに参加しています

富田林市「奇跡の復興米」を
紹介するウェブページのURL

支店事業協力委員会 全体会議

5月27日、すばるホールで「JA大阪南支店事業協力委員会全体会議」を開催し、支店事業協力委員、非常勤理事・監事、参与、役職員合わせて324名が出席しました。

第一部では、令和6年度の事業報告をまとめた動画を上映し、樫本吉成金融共済担当常務が、令和7年度各事業の取り組みについて説明し、田中浩司営農担当常務が、第9次総合3ヵ年計画の説明をしました。第二部では、「おはよう朝日」でおなじみの気象予報士であり防災士でもある正木明様を招き、「防災は自助・互助・協働のまちづくり」と題して講演しました。



JA大阪南 支店事業協力委員会 全体会議



あすかてくるで 出荷者大会

5月22日、ラプリーホールで「令和7年度あすかてくるで出荷協力会総会及び出荷者大会」を開催しました。会員1330名のうち、208名が委任状を提出、839名が出席しました。出荷協力会の杉原由真会長は出荷者に日頃の感謝を述べた後、事業報告など行いました。令和7年度の取り組みとして、InstagramなどのSNSを活用した情報発信による集客強化や農薬の適正使用、HACCPの考え方を取り入れた衛生管理の徹底などを確認しました。



NEWS & TOPICS

ニュース&トピックス



奇跡の復興米 12年目

6月2日、当JA新入職員と富田林市「岩手県大槌町奇跡の復興米」栽培委員会は、復興米の田植えを行い、地元小学生が参加しました。この田植えは、今年で12年目となり、地元団体や地域住民の協力で栽培を行い、「震災を風化させず、次世代にも伝えたい」という思いと食農や防災の意識を高めるため取り組んでいます。参加した小学生たちは「元気に育ってほしい」や「来年もまた参加したい」という声がありました。



青壮年部通常総会

JA大阪南青壮年部(部長 中筋秀樹さん)は、4月19日、令和6年度通常総会を開催しました。上程された議案は全て承認され、令和6年度に最も活躍した部員や支部に贈る青壮年部部长表彰は、河南支部が選ばれました。河南支部では、かなん桜小学校による復興米栽培実習・学校教育田の管理など、小学生たちに対する食農教育活動を積極的に行っており、食や農業をより身近に感じてもらう活動が評価されました。

奇跡の復興米 今年で12年目。



当JAと富田林市「岩手県大槌町奇跡の復興米」栽培委員会は、9月2日、富田林市喜志町内の圃場で、復興米の稲刈りを行い、地元の幼稚園、小学校が参加しました。

刈り取る稲は、2011年3月に発生した東日本大震災を生き延びた稲をルーツとする「奇跡の復興米」。縁があって当JAで種もみから苗を栽培し、震災を風化させない取り組みを始めて今年で12年目となります。この日は同JA役職員、地元関係者が参加者をサポートしました。収穫されたお米の一部は、大槌町へ贈られ学校給食で提供されるほか、稲わらは大阪市の天王寺動物園へ寄贈し、動物たちの寝床などに利用される予定です。



管内各地の 教育田



河南町



かなん桜小学校・近つ飛鳥小学校(合同)



東小学校



東条小学校

大阪狭山市



南第一小学校



南第三小学校

河内長野市



天野小学校

富田林市



喜志小学校



大阪狭山市果樹振興会 日帰り研修会



大阪狭山市果樹振興会(会長 東威男氏)27名は、令和7年度の日帰り研修会として大野ぶどうの販売で使用される段ボール製品などを製造されているレンゴー(株)の和歌山工場を視察見学しました。



大阪・関西万博



9月14日・15日、当JAは地元食材の魅力を発信するため、富田林産えびいもを使用した「富田林コロッケ」を販売しました。また、富田林ブランドに認定されている寺内町のクラフトビールも併せて紹介し、多くの来場者に富田林の食文化を知っていただける機会となりました。

天王寺動物園 稲わら贈呈



11月28日、富田林市「岩手県大槌町奇跡の復興米」栽培委員会が栽培指導し、管内の小学生が育て収穫した後の稲わら200kgを天王寺動物園へ贈呈しました。奇跡の復興米は、東日本大震災で被災した、がれきの中から見つかった3株の稲穂を復興のシンボルとして育てられたもので、当JAでは、内本直哉代表理事組合長を委員長とする栽培委員会が毎年栽培を行っています。贈られた稲わらは、主に動物の敷き床に使用する予定です。今後も管内各地区で、地元団体や同JA青壮年部の協力で復興米の栽培指導を行い、震災を風化させない活動を継続していきます。



羽曳野市立高鷲南中学校 地域学習



11月20日、市内の中学1年生が地域学習のフィールドワークで高鷲支店を訪れました。同支店では、学生からの質問に、支店長、渉外担当者、営農指導員が回答しました。学生たちはJAが営農、金融、共済などの総合事業であることや野菜の育ち方について、熱心にノートへ書き込んでいました。今回の訪問が、地域の産業やJAの役割を知るきっかけとなれば幸いです。

実行組合代表者連絡協議会 府外研修会



羽曳野地区実行組合代表者連絡協議会(代表 奥田昌弘さん)は、11月12日・13日、ト部産業株式会社 岡山工場の視察研修を行いました。

同社は、カキの養殖から加工・販売、カキ殻の再資源化までを一貫して行っており、カキ殻を原料とした有機石灰「セルカ」を製造・販売しています。参加者からは「土づくりに最適で作物の生育や根張りが良くなり、生産性が向上につながるため、使ってみたい」との声もあり、有意義な研修となりました。



青壮年部 高鷲学園への食材提供



JA大阪南青壮年部は2月9日、児童養護施設高鷲学園へ地場産の農作物などを提供しました。青壮年部は、これまで部員が育てた農産物を使った料理や、紙芝居などで児童との交流を深め、食育活動を行ってきました。今回提供した食材は、大根、白菜、トマト、しいたけなど農産物11種類、子ども向け雑誌「ちゃぐりん」とJA大阪南より奇跡の復興米30kgを手渡しました。同部会の中筋秀樹部長は「今後も活動の場を広げ、子どもたちへおいしい農産物の提供や食農教育を通じて、地域に根差した組織を目指します。」と話しました。



JA大阪南 組合員のつどい



茄子部会 総会



2月3日、JA大阪南茄子部会西板持支部は門前屋において支部総会および市場担当者との意見交換会を開催しました。市場担当の8社を招き、茄子の出荷最盛期の前に、生産者と市場担当者が本音で意見を交わしました。有利販売に向け、互いの目標を確認する貴重な機会となりました。



組合員のつどい



2月18日、SAYAKAホール(大阪狭山市)で組合員のつどいを開きました。「JA大阪南の取り組み」の動画を上映し、持続可能な地域農業・地域社会づくりに向けた活動を周知しました。参加した1990人を前に内本直哉組合長は、「組合員に最も身近で頼られる存在でありたいという思いの下、一人ひとりを深く理解し、それぞれに最適なサービスの提供を目指している」とあいさつしました。

後半のよしもとお笑いライブでは「女と男」、清川雄司、ザ・ぼんちのパラエティショーに続き、吉本新喜劇を上演し、会場は大いに盛り上がりました。

直売所職員が コンプライアンス・ 接客対応を学ぶ



3月5日、富田林市市民会館でファーマーズ部職員を対象としたコンプライアンス研修会を開催し、コンプライアンス(法令順守)について再周知を図りました。また、接客マナーやクレーム対応、カスハラに対する対応についても研修を行い、職員一人一人が接客対応の意識や行動の重要性を学びました。



富田林市みかん部会 視察研修



2月19日、富田林市みかん部会は淡路島にある産地直売所「赤い屋根」にて、みかん販売の促進を目的に、23名が視察研修に参加しました。商品の鮮度や売り場づくり、情報発信など生産者の意識が大きく関わっていることを学びました。今後は、消費者目線を意識した販売方法や情報発信の工夫に取り組んでいきます。



拝啓

五月、田植への季節となりました。

又昨年末には大変申請がふりまわりました。

米農家さん達は、以前にも増してお忙しい年になる
事と思っております。

昨日の報道等では「田んぼオーナー制度殺到」と聴き
な水田の言葉も聞きました。

私も改めて昨年の家計簿を見ると、お米は14kgが、6000円
程度でいたが、今は、7000円近くの価格です。

く日も早く安く、なすく水も、願うばかりです。

又田植えは、いつからでしょうか、田植えへのメッセージを同封

いたしました。宜しく、お願いいたします。 農各さんへお米の

和太こまりを七たいとす事、厚くうにうります。

「奇跡の復興米、田植えによせて」

新緑の中、はま目の田植え。お自由出とらぶらまう。

また、昨年秋頃から、これ迄、あまり耳にする事になかった「備前米」と言う言葉を報道等から聞くようになりました。

これ迄、お米の値段の変動もなく、いく／＼当り前にならなっていたお米の流通、そして値段を認識する（昨日のよう）。

話は変わりますが、今から4年前、東日本大震災以後で我家は津波にのまれ、跡形もなくなりました。

ところが、田んぼのなほ、小さな漁師町に、津波後の秋、我家の玄關跡地に、「やせた子株の稲」が、云々いたつた。お米の生産は稲作には、素人ながら、遠野まごころネット様の協力で、どうか少量収穫した事を懐く思つてお米を。

其後大榎所おがきに多大な支援をして下さりました。富田林所に
 いくとよりの種モミを贈った事が原点となり、この事が
 「奇跡の後継米」へのルーツとなりまう。

生徒の皆さんも田んぼのめぐるみを体で感じ、ひと粒く
 苗を植え、水やり、草取り、其他沢山の苦労ひまをかり
 日本の和食文化の米作りを体験して下さい。

終りに「奇跡の後継米」の製作を願ひ、関係各位に
 感謝を申しあげ、ありがとうございます。

令和二年五月吉日

山形県大榎所

おがき

菊池

好

たえ

「奇跡の後継米」稲刈りに寄せて―。

数えて、は白米とわかります。奇跡の後継米」稲刈り
おめでとうござります。

今年の夏は、東西南南北関係なく異例の猛暑
でした。

私の日常はほとんど室内での生活ですが、今年の暑さは
人生初めての夏でした。

報道などは「田んぼの水不足で収穫前期の稲にも異変
が起きている」と。と報じていて、遠い岩手県より
心配しております。

「奇跡の後継米」は、4年前の、東日本大震災にも負けず
生き残った稲です。

又、猛暑の中、「米作り」を体験できた事は貴重な
事でもあり、「白いごはん」の味も格別だと思えます。

そして、多くの皆様にお疲れさまでしたと感謝を申し
上げ、ご挨拶といたします。

二〇二五、九月吉日

後手集大権明

大権後興茶

菊池

村たえ

NY原油 一時92ドル台

イラン攻撃後 上げ幅35%超

【ニューヨーク本紙電】6日のニューヨーク原油期货市场で、代議院がイランを攻撃する可能性を議論した。NYの4月値は1バレル、前週比は1.50ドル高となった。NYの4月値は1バレル、前週比は1.50ドル高となった。NYの4月値は1バレル、前週比は1.50ドル高となった。

【ワシントン本紙電】NYの4月値は1バレル、前週比は1.50ドル高となった。NYの4月値は1バレル、前週比は1.50ドル高となった。NYの4月値は1バレル、前週比は1.50ドル高となった。

【ワシントン本紙電】NYの4月値は1バレル、前週比は1.50ドル高となった。NYの4月値は1バレル、前週比は1.50ドル高となった。NYの4月値は1バレル、前週比は1.50ドル高となった。



500km イラン

米タンカー護衛に對抗

イランホルムズ海峡巡り挑発

【ワシントン本紙電】イランがホルムズ海峡を航行する米タンカーを護衛する米海軍艦隊に挑発した。イランはホルムズ海峡を航行する米タンカーを護衛する米海軍艦隊に挑発した。イランはホルムズ海峡を航行する米タンカーを護衛する米海軍艦隊に挑発した。

【ワシントン本紙電】イランがホルムズ海峡を航行する米タンカーを護衛する米海軍艦隊に挑発した。イランはホルムズ海峡を航行する米タンカーを護衛する米海軍艦隊に挑発した。イランはホルムズ海峡を航行する米タンカーを護衛する米海軍艦隊に挑発した。

羽柴ですかが豊臣です

論評委員 柳林 壽高

徳川家康の「羽柴」が豊臣秀吉の「豊臣」に勝つた。徳川家康の「羽柴」が豊臣秀吉の「豊臣」に勝つた。徳川家康の「羽柴」が豊臣秀吉の「豊臣」に勝つた。

日本無人補給船 ISS離脱成功

「はやぶさ」

【ワシントン本紙電】日本無人補給船「はやぶさ」がISSから離脱した。日本無人補給船「はやぶさ」がISSから離脱した。日本無人補給船「はやぶさ」がISSから離脱した。

津波耐えぬ稲 大阪根付く

大阪府東大阪市の「津波耐えぬ稲」が、東日本大震災から15年を 맞아、復興の象徴として根付いてきた。東日本大震災から15年を 맞아、復興の象徴として根付いてきた。東日本大震災から15年を 맞아、復興の象徴として根付いてきた。



「津波耐えぬ稲」の収穫を待つ農夫たち。東大阪市の稲作農家（取材時）

東日本大震災15年 自給率も3倍 「復興米」の力になる。東日本大震災15年 自給率も3倍 「復興米」の力になる。東日本大震災15年 自給率も3倍 「復興米」の力になる。

被災地を支援する「津波耐えぬ稲」が、東日本大震災から15年を 맞아、復興の象徴として根付いてきた。被災地を支援する「津波耐えぬ稲」が、東日本大震災から15年を 맞아、復興の象徴として根付いてきた。

児童9000人が栽培「命」つなぐ



児童9000人が栽培「命」つなぐ

児童9000人が栽培「命」つなぐ。児童9000人が栽培「命」つなぐ。児童9000人が栽培「命」つなぐ。児童9000人が栽培「命」つなぐ。

【ワシントン本紙電】日本無人補給船「はやぶさ」がISSから離脱した。日本無人補給船「はやぶさ」がISSから離脱した。日本無人補給船「はやぶさ」がISSから離脱した。

【ワシントン本紙電】日本無人補給船「はやぶさ」がISSから離脱した。日本無人補給船「はやぶ�」がISSから離脱した。日本無人補給船「はやぶさ」がISSから離脱した。

【ワシントン本紙電】日本無人補給船「はやぶさ」がISSから離脱した。日本無人補給船「はやぶさ」がISSから離脱した。日本無人補給船「はやぶさ」がISSから離脱した。

防災の絆 ウェブ発信

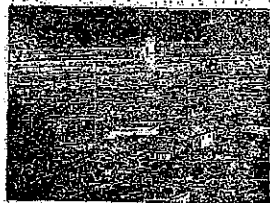
富田林市と岩手・大槌町

岩手県大槌町

～発災時の様子①～



砂壁とともに波が町を飲み込んでいく様子
撮影日:平成23年3月11日
撮影者:大槌町



東広町、新町方面
瓦礫で埋め尽くされている様子
撮影日:平成23年3月11日
撮影者:大槌町

②～「奇跡の復興米」の取り組み②～



JA大阪南・JA大阪南青壮年部・富田林市・農協会などの関係者
で結成している「富田林市「岩手県大槌町等の復興米栽培委員会」
」で、平成26年に専任地区の本田3アールから栽培がスタートし、今
年で12アールを達し55.5アール栽培しています。

「震災を風化させず、次世代にも伝える」という
思いのもと復興米の栽培に取り組んでいます。

③発災直後の様子③「奇跡の復興米」の栽培を通じて 大槌町との交流が続いている＝いずれも富田林市提供

富田林市の吉村善美市長は「大震災を『自分事』として捉え、災害への備えや避難行動など防災・減災を考へてほしい」と話している。

富田林市の吉村善美市長は「大震災を『自分事』として捉え、災害への備えや避難行動など防災・減災を考へてほしい」と話している。

富田林市は、499億6700万円の2026年度一般会計当初予算案を発表した。普通建設事業費が大幅に減り、前年度比

市HPパネル展 復興米交流など紹介

富田林市は市ホームページ（HP）で、「東日本大震災から15年 岩手県大槌町との絆 被災地から学ぶウェブ防災パネル展」を開いている。交流のある岩手県大槌町の被害や捜索活動の様子、市からの支援状況などの写真や説明文を記したパネル40枚を公開。市は「災害の教訓を生かして、災害に備え、自助・共助につなげてほしい」としている。（山内浩平）

東日本大震災 15年 大震災

同市はこれまで、市民らに防災意識を高めてもらうと、この時期にあわせて大槌町に関するパネル展を開催してきたが、庁舎建て替え工事のため2年前からHP上でパネル展を開いて

東日本大震災が発生した際に、大槌町が支援先自治体として関西広域連合から割り当てられたため、市は支援物資の提供や職員の出遣、義援金の受け付けなどを通じて町を支援した。

その後も、津波の被害から生き残った稲を、市やJAなどの関係者でつくる団体が受け継ぎ、市内で2014年から栽培する「奇跡

羽曳野市は、499億6700万円の2026年度一般会計当初予算案を発表した。普通建設事業費が大幅に減り、前年度比7.2%減となった。

「面を」書いたばかりの紙面「モニター」をご利用になります。

府内の路上で、背後から少女を突き飛ばし「静かにし

揺さぶり、急性硬膜下血腫などを負わせたとして、中警備課の男性巡査長(28)を停職3か月の懲戒処分とした。長男は命に別条はないという。

本町見学 11日 大谷中学校1年 光と愛の福祉寄金

羽曳野市予算案499億円 小児神経医の巡回費など



大教発第 987 号
令和 8 年 3 月 30 日

富田林市「岩手県大槌町奇跡の復興米」
栽培委員会 委員長 様

大槌町教育委員会学務課長 米沢俊哉

奇跡の復興米ご寄贈に伴う御礼状等の送付について

平素より大槌町の子どもたちへ温かいご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年 11 月にご寄贈いただきました「奇跡の復興米」につきまして、教育長からの御礼状に加え、お米を美味しくいただく子どもたちの様子を収めた写真を同封いたしましたので、お送りいたします。ぜひご覧いただけますと幸いです。

なお、写真等のとりまとめに時間を要し、ご報告が大変遅くなりましたことを深くお詫び申し上げます。

記

- | | |
|----------------------------|-----|
| 1. 御礼状（大槌町教育委員会教育長 松橋文明より） | 1 通 |
| 2. 写真（学校給食等での提供の様子） | 1 式 |

以上

令和8年3月30日

富田林市「岩手県大槌町奇跡の復興米」

栽培委員会 委員長 様

大槌町教育委員会教育長 松橋文明



拝啓 春暖の候、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

昨年11月には、今年も心温まる「奇跡の復興米」300kgをご寄贈賜りまして誠にありがとうございました。

いただいた復興米は、町内の学校給食センターをはじめ、こども園等の保育施設や、子ども食堂に配布し提供させていただきました。子どもたちも大喜びでおかわりをして、美味しくいただいております。

震災の瓦礫から見つかった3株の稲穂をルーツとするこのお米を、富田林市の皆様が毎年大切に育てて里帰りさせてくださる熱い思いと、震災を風化させないという強い「絆」に改めて深く感謝いたします。

つきましては、お米を美味しくいただく子どもたちの様子を収めた写真と、御礼の手紙を同封いたしましたので、ぜひご覧ください。

この度のご厚情に対しまして、略儀ながら書中をもって御礼申し上げますとともに、委員長様はじめ皆様ますますのご発展とご活躍をお祈り申し上げます。

敬具



復興米
ありがとう

2026.01



袋の中身はどんなお米だろう？

これは玄米っていう状態だよ！
白じゃなし、黄色も緑もある～！
初めて見た！！



え？見たことなかった！
日が経ったごはんみたいないな色！



奇跡の復興米が
届きました！
富田林市のみなさん
ありがとうございます



みんなで精米にも
行きました！
この機械の中
どうなってるの？！



復興米のないたちや
田橋え・稲刈りの様子をみんな
学びました。



復興米でおにぎりづくり。
好きな具で握りました♪
復興米、おいし～い♡



黄色っぽかったお米が
真っ白になって出てきて
びっくり！！



今年もおいしい復興米をありがとうございました！



クリスマス
バイキングで
カレーピラフに
してもらって
いただきました！

R7.12 きりぎりほいくえん

吉里吉里小学校



大槌学園



吉里吉里中学校





すかく
おいしいごはん
でした!!

ありがとうございます。

©Shinzi Katak



Dear 富田林市の皆様

おいしいお米、

ありがとうございます。

おいしいお米よ ~ ~ ♡



©Shinzi Katak

このお米がおいしい



いまがおいしいお米です。



©Shinzi Katak

桜の梢から

大槌町教育委員会だより



大槌町教育委員会から
情報を発信しています

令和7年度「住みよい町づくり作文 『心の温もり』」表彰式が行われました

令和7年11月28日(金)に「住みよい町づくり作文『心の温もり』(大槌町少年非行防止推進委員会主催)の表彰式が、おしゃやちで行われました。
毎年、みんなが過ごしやすい、すてきな大槌町の発展に向けて、子どもたちが日常の生活を垣越して感じたことや考えたことを作文としています。本年度も町内各学童から寄せられた作品の中から、厳正な審査の結果、以下の皆さんが入賞し、当日は最優秀賞に輝いた3人が朗読発表しました。なお、受賞作文集を後日関係機関に配布しますので、ぜひご覧ください。

小学生低学年の部

- 最優秀賞 佐藤 絆乃 さん (大槌学童2年)
- 優秀賞 佐藤 尚 さん (大槌学童2年)
- 佳作 岩 浦 由 さん (大槌学童1年)
- 佳作 筒 井 伊 哉 さん (吉里吉里学童3年)

小学生高学年の部

- 最優秀賞 久 保 菜 さん (大槌学童5年)
- 優秀賞 兼 瀬 結 月 さん (大槌学童4年)
- 優秀賞 高 滝 水 咲 さん (大槌学童6年)
- 佳作 筒 井 繭 悠 さん (吉里吉里学童4年)
- 佳作 三 浦 桃 花 さん (大槌学童5年)

中学生の部

- 最優秀賞 左 野 莉 希 さん (吉里吉里学童8年)
- 優秀賞 菊 上 綺 さん (大槌学童8年)
- 優秀賞 佐々木 由 和 さん (大槌学童9年)
- 佳作 岩 井 羅 太郎 さん (大槌学童7年)

読みよい町づくり作文表彰式



大槌高校だより

大槌高校の学校生活や日々の様子を町民の皆さんにお伝えします！



大槌高校HPやnolpでも
学校の生活の様子を
発信しています！

SIMおおつち町外フィールドワーク

1年生が実施している「SIMulation おおつち」の続編です！
町が抱える課題の解決方法を検討するため、令和7年12月4日(木)に1年生全員が「町外フィールドワーク」を実施しました。生徒が設定した10のテーマそれぞれに適した事業所へ実際に訪問し学びを得るプログラムです。
各事業所のご協力のおかげで、町外に出たからこそその発見やアドバイスをいただくことができました。この学びを生かし、町内の課題解決に向けてさらなる調査・活動を続けていきたいと思っています！



- 訪問先**
- みやっこパーク (宮古市)
 - つちのこ保育園 (徳代村)
 - 小川しじゅう保存会 (釜石市)
 - 株式会社シャイン (大船渡市)
 - 株式会社大船渡酒造 (大船渡市)
 - 陸前高田防災減災フィールド (陸前高田市)
 - NPO法人SET (陸前高田市)
 - 岩手大学ツキノアノプログラム研究所 (盛岡市)
 - 岩手県立大学防災復興支援センター (滝沢市)
 - 岩手県立大学社会福祉学部 (滝沢市)

マイプロ中間発表会

2年生は自身の興味のあることを探究する「マイプロジェクト」を1年間通して実施しています！
令和7年11月20日(木)に「中間発表会」を町内6会場で開催し、地域から多くの参加がありました！
マイプロジェクトを初めて知る参加者から「すごい！」「面白い！」「面白い」という声がたくさん挙がり、発表終了後も話が尽きない様子がとても印象的でした。いただいたアドバイスを生かして、それぞれのマイプロジェクトを進めていきます。地域の皆さま、ご協力ありがとうございました！



- 町内の6会場**
- つづみこども園
 - 中央公民館
 - 中央公民館
 - 若山地区集会所
 - 若山地区集会所
 - 若山地区集会所
 - 大槌町多目的施設

2月21日(土)に発表会を実施します！ぜひご来場ください！

はま留学からのお知らせ

はま留学生の下旬先着集中！

はま留学生をご自宅で3年間受け入れてくれる家庭を募集しています。生徒たちを応援したい人や、空き部屋がある人はぜひご検討ください！詳しく知りたい場合は学務課(TEL0193-42-6100)まで

はま朝さん募集中！
はま留学生を地域で温かく支える取り組みです。
地域イベントやお家ご訪問に誘い、充実した大槌での生活を一緒に楽しみませんか？



「奇跡の復興米」富田林市より里帰り～給食でおいしくいただきました～

大阪府富田林市の「若手県大槌町奇跡の復興米栽培委員会」の皆さまから、今年も「奇跡の復興米」300kgを寄贈され、町内のこども園や給食センターに配布しました。このお米は、震災の直前から見つけた3株の稲穂をルーツに、同市の皆さまが大切に育て、里帰りさせてくれたものです。富田林市の皆さまの思いと、震災を風化させない「絆」に感謝を込めながら、おいしくいただきました。



令和7年12月5日(火)の学校給食で「奇跡の復興米」が提供されました

